■ 北海道地域観光学会誌の創刊にあたって

「観光」・「地域」・「人」の連携的イノベーションをめざす 新たな統合的学問分野を創造する

北海道地域観光学会会長・北海商科大学大学院教授　伊藤昭男

世界では国境を取り払う諸力と隔てる諸力とがせめぎあいながらグローバル化が進行している。世界の中の一国である日本は、国内的要因を基本としながらも日本を取り巻く世界情勢という環境要因の影響を受けとめながら時代に適応した国家社会形成をおこなっている。日本の国内地域は、国家形成の枠組みの構成体である以上、国家社会の適応に依存した社会形成を進めざるを得ない。しなしながら、本来、地域には固有の特性が備わっており、国家形成と連携するだけではなく、地域社会およびその構成主体である人々および組織が自主的に地域独自の取り組みを進め、安定・発展を獲得していかなければ地域社会水準の向上は見込めないであろう。

一方、観光とは今日のダイナミックな世界・日本・日本の国内地域の動きとどのような係わりを有しているのだろうか。観光は所得および交通条件と相関性が高いことから察せられるように当該社会の成熟度に従って、その位置づけは高まっていくものである。国際観光ではこれまでの欧米における活発化に加え、近年ではアジアの成長が顕著である。観光はビジネスを含む人の周遊を含めた往復移動であることから、単に個人的な欲求を満たすだけではなく経済的目的を含むものである。したがって、世界・日本・日本の国内地域において観光を考えることは社会・経済との広範な結びつきを考えることでもある。こうした認識に立つと国内観光はともかく、国際観光においても国家間でのみ自主的対応を図るだけではなく、国内地域においても自主的な国際観光振興を図ることがますます必須要件と考えざるを得ない。これまで日本の地域（例えば北海道）においては、地域の国際観光振興は国家政策を与件とした整合的な内容とせざるを得ず、地域特性や地域に適合した国際観光振興、また観光の本来有する力の吟味に基づいた地域社会の未来創造を十分考えるまでに到達していない。このことは、もし地域がそうした状況を打破した主体的な観光振興を推進するならば、地域活性化のブレーク・スルーを導くことも可能なことを暗示している。地域の人・組織・資源は元々地域が有する活性化のための有力な諸力である。観光振興を通じてこれらの諸力を一層強化・育成し、効果的な観光振興を導くことは同時に地域経済社会の効果的な活性化を導くことであり、それは地域の集合体である国家の活性化に結びつくこととなろう。

本学会設立趣意書において大内東発起人代表（北海商科大学大学院教授、本学会名誉会長）が示したように「地域観光学とは、観光が「場」依存であることに基本的視点を置き、各地域の観光振興を研究することを目的とした学際的かつ地域内組織連携を有した新たな統合的学問分野」である。北海道は自然、地形（島嶼部など）、歴史、社会・文化、経済など日本の他地域と異なる多様な地域特性を有しているとともに、地域ならではの問題も抱えている。その解決はあくまで地域としての“場”の観点から地域の人々および組織が主体的に対応していくことが基本である。

観光は複雑性を有した現象であり、学際的な学問領域を必要とするとともにその研究の歴史も浅くいまだに解明すべき多くの点がある学問領域である。しかしながら観光が持つ“未知なる力”を解明し、地域という“場”でその発現のために努力することは未来の希望ある地域社会形成にとって極めて重要な命題であり、国家の立場から解決できる問題ではない。今、なぜ本学会を設立し活動すべきなのかの理由の一端はこの点にある。本学会の使命は、観光現象を地域の“場”という視点からとらえ直し、「観光」・「地域(北海道)」・「人」の連携的イノベーションの創造を図ることにある。

学会誌「北海道地域観光研究」がこうした使命を追求し、北海道の観光振興および地域振興における一つの知的牽引機能を担う土壌および媒体となることを大いに祈念する。